

私たちが目指しているのは、緑豊かな環境 で知的生産活動ができる「偉大なる田舎」です。

このほど、評論家の土屋桃子さんが来熊されたのを機に、細川知事との対談が球磨郡水上村で行われました。桜の研究でも有名な土屋さんは、「桜の里づくり」を進める水上村に深い関心寄せられ、日本一づくり運動などについて、様々なアイデアや意見を披露してくれました。

土屋 この水上村の「桜の里づくり」は、熊本県で進めていらっしゃる「日本一づくり運動」のひとつなんです。熊本の特色を生かして、一生懸命地域づくりをやっています。

知事 県全体で、各地域の持つ特色を生かして、一生懸命地域づくりをやっています。ここは幸いに、市房ダムのおかげで、一万本くらいの桜が植えてありますので、それを生かして日本一の桜の里づくりをしよう、ということなんです。

知事 県全体で、各地域の持つ特色を生かして、一生懸命地域づくりをやっています。ここは幸いに、市房ダムのおかげで、一万本くらいの桜が植えてありますので、それを生かして日本一の桜の里づくりをしよう、ということなんです。

知事 県全体で、各地域の持つ特色を生かして、一生懸命地域づくりをやっています。ここは幸いに、市房ダムのおかげで、一万本くらいの桜が植えてありますので、それを生かして日本一の桜の里づくりをしよう、ということなんです。

知事 県全体で、各地域の持つ特色を生かして、一生懸命地域づくりをやっています。ここは幸いに、市房ダムのおかげで、一万本くらいの桜が植えてありますので、それを生かして日本一の桜の里づくりをしよう、ということなんです。

知事 県全体で、各地域の持つ特色を生かして、一生懸命地域づくりをやっています。ここは幸いに、市房ダムのおかげで、一万本くらいの桜が植えてありますので、それを生かして日本一の桜の里づくりをしよう、ということなんです。

水上村の「桜の里づくり」。日本人の情緒をテーマにもっと夢を広げてほしいですね。

んが一軒に一本植えたりと、今年から五年がかりの計画です。

土屋 桜と言うと日本の国花ですけど、桜に対する日本人の思い入れは以前に比べると最近弱くなった、という話を聞きます。そういう時に、この桜の里づくりは、大変おもしろい、意義深い事だと思えますね。桜に関する歌とか、本とか、いろいろなものを集めてみるのもおもしろいですよ。

知事 桜の博物館や図書館もいいてすね。桜のことを書いた本は、全部水上村の図書館にある、とかね。テーブルや筆箱や灰皿や、あらゆるものが桜でできている、村の記章も桜だということになったら、コミユニティ・アイデンティティとしては最高にすんだものになるんじゃないでしょうか。

土屋 椅子とか筆箱とかは商品にもなりますし、便せんや封筒を和紙で作ったら、外国にも売れますよ。桜の葉や花びらを和紙にすき込むと、

て、水上村は「桜の里づくり」をやっているということなんです。規模とか量の問題じゃないんです。テクノポリスという、熊本は大変力を入れていらっしゃるんですが。

知事 テクノポリスは、テクノロジー（技術）とポリス（都市）の造語ですけど、私はテクノよりポリスが大事だと思えます。ポリスがしっかりしていれば、テクノはあとからくっついて来る、と。

知事 ポリスづくりの一環として、緑の三層増計画をやっていますね。その中で、緑の三層システムというのは、たとえば県営住宅など公共事業費の三割は緑化にあてる、という方式なんです。

土屋 産業や文化や、あらゆるもの

すばらしいですね。

知事 いいですね。そういうものができたら、観光だけじゃなく、産業としても、とてもユニークなものになるだろうと思いますね。

土屋 桜の絵のコンクールなんかいいですね。考え出すと夢がどんどん広がって来て楽しいですね。ただ、何をやるにしても最終的には、この村の中で商品づくりや桜守の人たちが育っていないと。

知事 行政はあくまでも黒子でね。最初の音頭よりはやりませんが、あとは地元なり民間の方々の盛り上がりがないと育っていかないのじゃないですか。

土屋 いろんな地方で「ムラおこし」という言葉が聞かれるんですけど、ICとか先端技術を使っている話が多いですね。でも、こういった日本人の持つ情緒をテーマに「ムラおこし」するって、すごく大事なことで、そこを、熊本は昔から農業技術

を包括した環境づくりを目指しているんじゃないですか。

知事 それができれば、人材は黙っていてもどんどん集まってくるし、人材が集まればテクノロジーもついて来るんです。

土屋 夢があつていいですね。熊本に来て、いろんな方にお会いしたんですが、仕事が楽しくてしょうがない、というお話を伺っていますね。それはすばらしいことだと思うんです。

が進んでいると聞いたんですけど、それもムラおこしが活発なことの現われと言えそうですね。

知事 昔から先端技術を取り入れていくことに熱心な地域なんです。たとえば、石橋の技術などは一番進んでたんですよ。県内には古い石橋がたくさん残っています。それに皇居の二重橋を作ったのは熊本の人なんです。

土屋 石橋は、大変な技術力がないとできないそうですね。

知事 ええ、熊本城の武者返しの建

んで作っているという感じがします。知事 そうなっている方がいいですね。私たちが目指しているのは、東京や大阪みたいにゴミゴミした所じゃなくて、緑豊かな知的環境で生産活動ができる、「偉大なる田舎」を作ることなんです。

土屋 みなさんの様々な活動が、十年後、二十年後、実り多いものになるようにお祈りしています。



プロフィール
土屋桃子(つちやももこ)
昭和二十五年三月二十一日
埼玉生まれ
埼玉五所生まれ
埼玉五所生まれ
生活工学研究所長
土屋桃子生活教室校長

評論家 土屋桃子さん

細川知事